

私はこの本、DVDを拝見し、まが修業に  
向き合う双方の覚悟と思いの深さに圧倒され  
ました。年下の丁稚の方が泣きながら必死  
に学びたいと食いついていく姿や、また自分  
と向き合い、それぞれ課題を乗り越えるに  
めに必死に努力している姿に感銘を受けまし  
た。また本の中で器用な人と不器用な人の話  
がありました。私は器用な方で今まで大しに  
努力をしはくても覚えを早く、人並みにでき  
ますが、より上をを自指すことなく、そここ  
満足をしてしまっていたように感じました。ま  
の感動も薄く、傲慢になりやすいなど、まがし  
くだと感じました。私は今まで大きな挫折も  
せず、ここままで来てしまい、それは自分で  
きる範囲のこをやり、挑戦してこなかった  
からだと改めて感じています。自分の限界を  
自分で決めるのではない、目の前のこに必  
死に取り組み、また躊躇せお挑戦をし、勇気  
を持って道人がいきなると思いますが、また自  
分のちがほけなポイントは捨て、素直な馬鹿

に「は」って吸収し、学んでいきたいと思ひました。だが素直な馬鹿になるというのは、容易ではないです。それは成長したいという思いの深いのが表れたと思ひます。まに職人心得三十箇条でもできていはい二とがほとんどの意識しなければならい二とが山程あります。また自分が今まで自分勝手に過ぎてきた。また自分が今までも改めて感じました。DVDの中、「傲慢」は日々気を付けなければ出てきません。秋山さん、一カ月前には出てきた。こしまうとお話をされた。いきました。いづくに「は」って、どれだけ素晴らしい方になつても、日々自問自答を繰り返して、自分を律し、在るべき姿や理想を追い求めていらう。素晴らしい姿に「は」からこそ素晴らしい一流の心と一流の技術を持つ二とができるの二と改めて感じ、人としてこの備業は一生涯あり、それをどのように向き合えるか。人生の選択や生き方が大きく変わって行くの二と改めて感じました。自分の今後の道を明確にし、進むべき理想の姿

を自分の中でしっかりと持ち、日々の生活の中で一つ一つの行動に意識を置き、目の前のことを取り組んでいきます。また自分が及ぼす周りへの影響を考え、立ち居振る舞いを見直し、行動を改めていかに感じました。また心が一流と技術も一流にされるとありました。ついに小手先の事を考えました。やはり、近道を考えず、まじめに自分という人間を鍛え、人間性を高めていくことですが、本当の技術は身につくかはいくらもとをしっかりと理解し、また親孝行をしたいという思いを大切に、日々の生活に向き合って精進していきたいと思えます。